

令和８年度 市長との対話集会（国富地区） 議事要旨

日 時：令和８年７月７日（火）１９時００分～２０時３０分

場 所：国富コミュニティセンター

参加者：３６名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

１ 参加者からの主な意見

（１）教育・若者の育成

- ・夢を持てる人、地域愛を持つ人を育てるため、中高生を交えた対話の場を設けることで、相乗効果のある良い議論ができる。

（２）観光振興・ＰＲ強化

- ・サバや海産物などの食文化、寺院などの既存の魅力をさらにアピールすべき。
- ・フォトスポットの設置、さばトラななちゃん（相方がいても面白い）や観光大使による発信の強化。
- ・新規施設の建設より、既存施設の飲食や休憩スペースを充実させ、利便性を向上させる。

（３）定住促進・地域コミュニティ

- ・交通アクセスを良くすることで定住につながる。
- ・人口増加が見られる地区（新興住宅地）の事例から、地域の「役」などの「しがらみ」を減らすことが若者の定住に繋がるのではないかな。
- ・子育て費用の負担軽減（無償化など）といった分かりやすい支援があると良い。

（４）地域資源の活用と新たな挑戦

- ・旧国富小学校を活用し、企業と連携した農業体験施設やスポーツ交流拠点化、周辺自然を利用したサイクリング、スタンプラリーなどの実施により交流人口の増加と地域の活性化を図る。
- ・温泉掘削のような将来の夢の実現に繋がる挑戦に対しても支援を検討してほしい。

（５）若者の地元定着策

- ・若者がなぜ地元に残るのか理由をアンケート等で探り、子どもの頃から地元の魅力を感じさせるための教育や啓発が必要。
- ・

２ 市長からの主な回答

（１）教育・若者の育成

- ・昨年度の教育大綱策定において、子どもたちの意見を反映させている。今後、国富地区でも、高校生等をファシリテーターとした「国富子ども会議」などの対話集会を開催してもらえると面白い。

（２）観光振興・ＰＲ強化

- ・新規のハード整備よりも、既存の魅力を外部へ発信することが重要。来訪者が SNS でどのような情報を発信・評価しているかをキャッチする仕組みの構築が必要。
- ・「さばトラななちゃん」の更なる活用や、PR 大使の設置等を検討・推進していく。

(3) 定住・コミュニティ対策

- ・地域の「役」などの負担軽減や改善は行政としての課題でもある。若者を交えて楽しく参加できる仕組みづくりを地域と一緒に考えていく必要がある。
- ・新幹線開業を見据え、若者が働きたい職場環境や休日の過ごし方を踏まえたまちづくりを進める必要がある。

(4) 地域資源活用・財政方針

- ・旧国富小学校を活用した国富地区の取り組みは先進的であり高く評価している。企業連携を含め、さらなるチャレンジを一緒に考えていきたい。
- ・空き家対策については、近年の建築費高騰を踏まえ、リノベーションによる移住・定住促進のニーズが高まっているため、空き家情報を共有し、行政としても発信していく。
- ・持続的に収益を生み出し将来のブランド価値を高める有効な事業（温泉掘削などの熱意ある挑戦）であれば、市民の理解をいただいたうえで支援できる可能性はある。

(5) 若者の地元定着

- ・若い人たちにとって何が地元に残る理由（魅力・惹きつけるもの）になるのかを把握することは非常に重要である。
- ・その理由を探る方法として、大人だけで考えるのではなく、小中高校生を集めた「国富子ども会議」を開催し、子どもたちの本当の思いやニーズを直接聞き出し、一緒に地域の未来を考える場を作ることが有効である。